

平成 23 年度版
行田市環境報告書

ほ し
～この地球とともに～



(長野 旧忍川へんてんもんび辯天門樋)

平成 23 年 12 月

行 田 市

目 次

行田市環境報告書とは？	1
(1) 環境報告書が作られるまで	1
(2) 目的	1
(3) 構成	2
第1章 環境に関する市の取組について	3
(1) 環境に関する計画等の位置づけ	3
(2) 環境基本計画の概要	4
(3) 環境基本計画の点検・評価の仕組み	5
第2章 市内の環境の状況	7
第3章 環境基本計画の進捗状況	15
(1) 重点的施策の進捗状況	16
(2) 数値目標の達成状況	36

行田市環境報告書とは？

(1) 環境報告書がつくられるまで

行田市では、平成 14 年 3 月に『行田市環境基本条例』を施行し、さらに同条例に基づき、平成 16 年 3 月に『行田市環境基本計画』（以下、「環境基本計画」といいます。）を策定しました。この環境基本計画の実効性をより確実にするため、平成 17 年 3 月に『行田市環境基本計画 第 1 次実行計画』を策定しました。

また、平成 18 年 3 月には、市民や事業者のみなさまが環境に配慮する際の参考となる『行田市環境基本計画配慮指針』（以下、「配慮指針」といいます。）を発行し、環境基本計画を市民、事業者、市の三者で進めていくための基盤を整えました。

その後、環境問題に対する国内外の情勢をはじめ、さまざまな環境や社会の変化に対応するため、環境基本計画を平成 21 年 3 月に改定し、平成 22 年 3 月に『行田市環境基本計画 第 2 次実行計画』（以下、「実行計画」といいます。）を策定しました。

これらを受けて、平成 18 年度から毎年度、行田市の環境の現状や、環境に関する施策の進捗状況などを整理した『行田市環境報告書』の作成を行っています。

(2) 目的

行田市環境報告書は、市民のみなさまに行田市の環境行政の進捗状況をお伝えすることを目的としています。

読者・利用者の目的に応じて、さまざまな使い方が考えられます。例えば、こんなときに使ってみてはどうでしょうか？

- 行田の環境がどうなっているのか知りたい！
- 行田市の環境への取り組みについて知りたい！
- 環境保全活動への参加のヒントにしたい！
- 公害問題の現状を知りたい！・・・など

(3)構成

この環境報告書は、次のように3章から構成され、平成22年度の実施状況を中心にまとめられています。

■第1章:環境に関する市の取組について

環境基本計画をはじめとする環境に関する各種計画の位置づけや、環境基本計画の概要、点検・評価の仕組みについて紹介しています。

■第2章:市内の環境の状況

行田市の自然環境、生活環境（公害）、都市環境、資源・エネルギー、環境保全活動の現状について紹介しています。

■第3章:環境基本計画の進捗状況

環境基本計画に掲げられている施策の進捗状況および指標・目標の達成状況について報告しています。

●—— 第1章 環境に関する市の取組について ——●

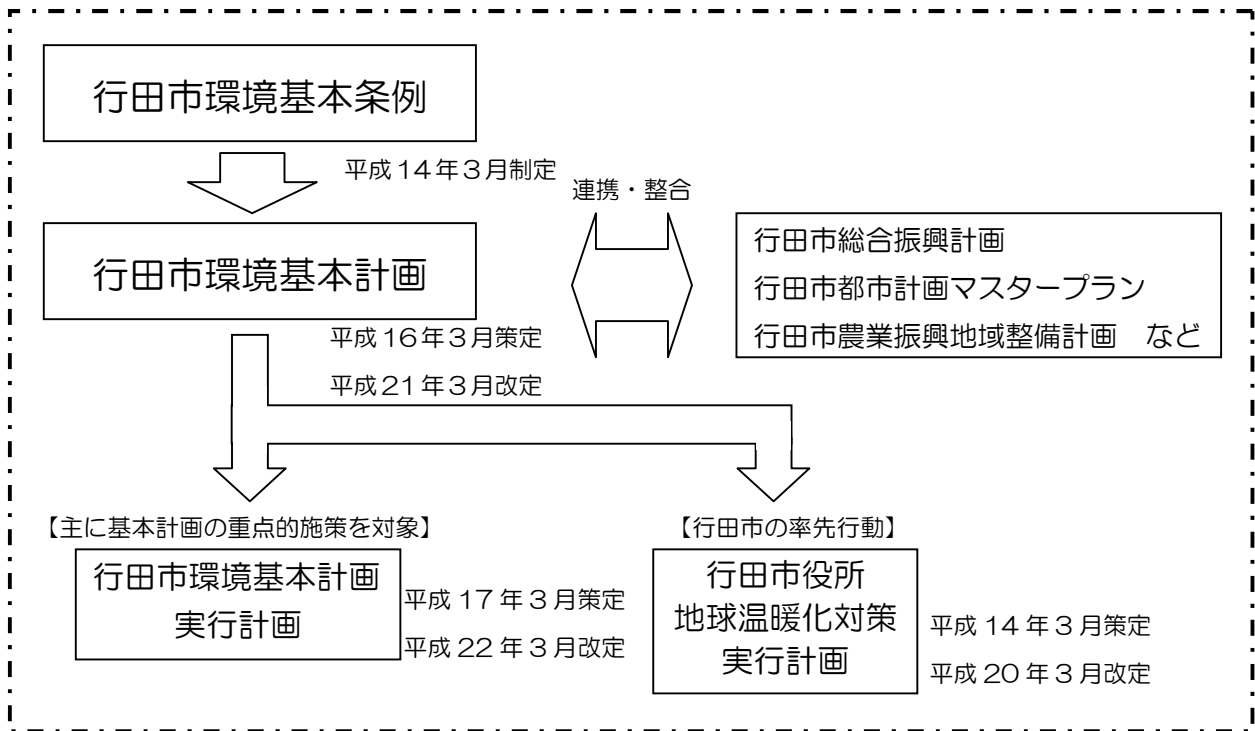
本章では、行田市の環境の保全や創造に関する施策を進めるための計画である『行田市環境基本計画』を中心とする環境に関する計画等の位置づけや、環境基本計画の概要、進行管理の体制等を紹介します。

(1)環境に関する計画等の位置づけ

行田市では平成14年3月に制定された『行田市環境基本条例』をはじめとし、環境基本計画、実行計画、環境配慮指針等を策定し、環境への取組を進めてきました。

これらの環境に関する計画等の位置づけは、以下のとおりです。

●環境に関する計画等の位置づけ



(2)環境基本計画の概要

環境基本計画は、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、平成16年3月に策定されました。行田市環境基本条例の理念に基づいて、行田市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画です。環境基本計画は、平成20年度に見直しを行い、平成21年3月に改定版を策定しました。

○計画の期間

2004年度（平成16年度）から2013年度（平成25年度）までの10年間です。

ただし、社会・経済・環境など著しく変化した場合には計画を見直すなど、柔軟に対応するものとします。

○計画の推進主体及び対象範囲

計画の推進主体は、市民（NPO団体）、市内に事業所を持つ事業者及び行田市の三者です。

また、計画では自然環境、生活環境、都市環境、資源・エネルギーの活用、環境活動・環境学習、地球環境のすべてを対象範囲とします。

○行田市の望ましい環境像と5つの基本目標

環境基本計画では、望ましい環境像と、その実現に向けた基本目標を以下のとおり設定しています。

★行田市の望ましい環境像

先人から受け継いだ美しい田園風景と歴史的遺産を囲む豊かな自然環境を
人々の生活との調和を図りながら守り育てるまち

★5つの基本目標

自然の恵みと生き物の営みを守り育てる

大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる

歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する

ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る

行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む

環境基本計画の実効性をより確実にするために策定された実行計画は、重点的施策に係る個別目標及び実施スケジュール、計画の進捗状況・目標達成状況を評価するための数値目標などを定めています。

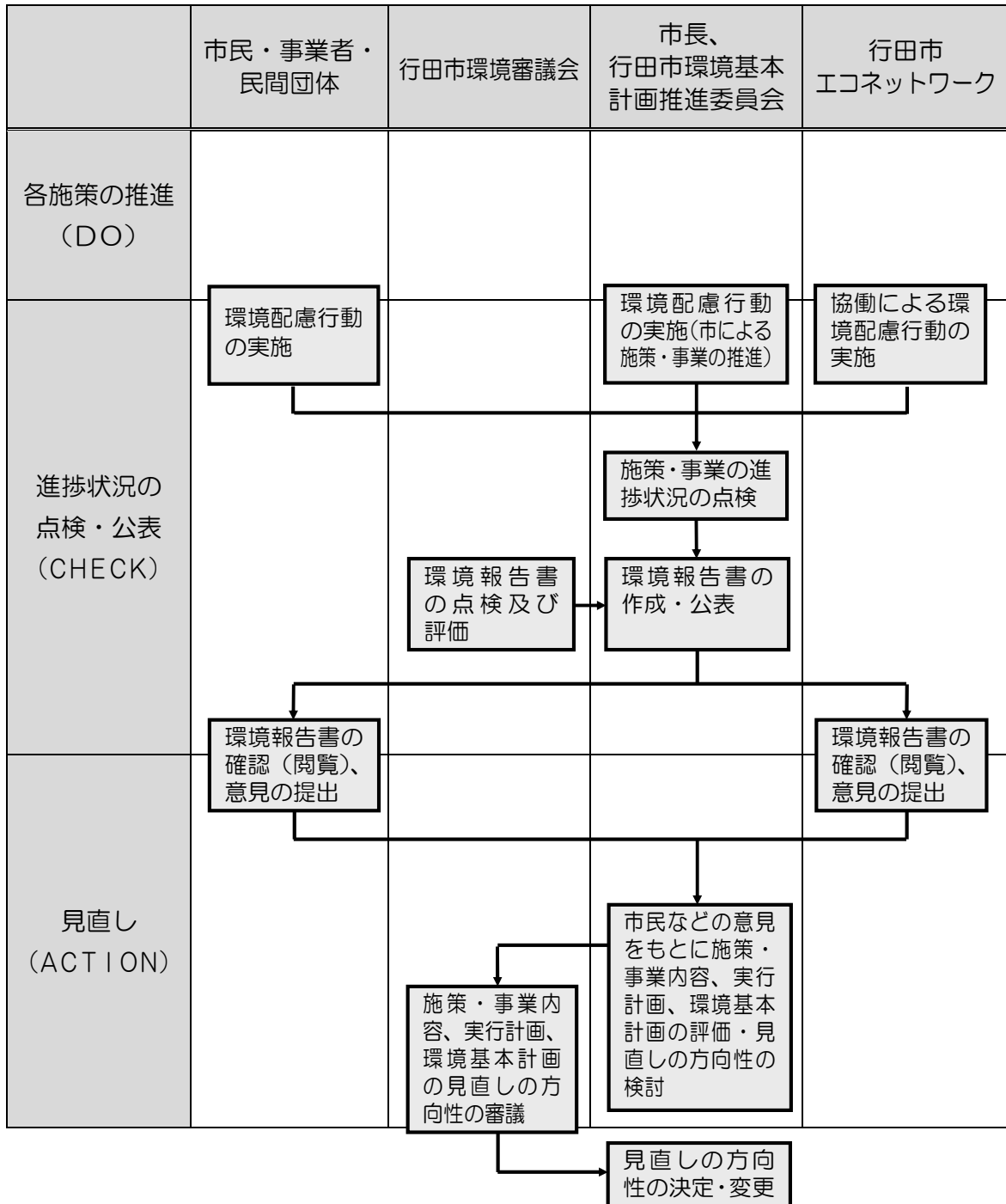
(3)環境基本計画の点検・評価の仕組み

環境基本計画を着実に進めるために、市民、事業者及び市による自主的な取り組みと、継続的な改善が必要です。そのため、環境基本計画の進行管理は、6 ページの表のとおり、計画（Plan：環境基本計画、実行計画、配慮指針）→各施策の推進（Do）→進捗状況の点検（Check）→見直し（Action）という、PDCA サイクルによる進行管理システムを導入しています。

このシステムは、環境基本計画に基づく各主体の取り組みの進捗状況を点検・評価して、環境報告書を公表し、各主体、各組織のコミュニケーションを図りながら、今後の施策・事業のあり方や計画の見直しに反映させようというものです。



●進行管理の流れ



第2章 市内の環境の状況

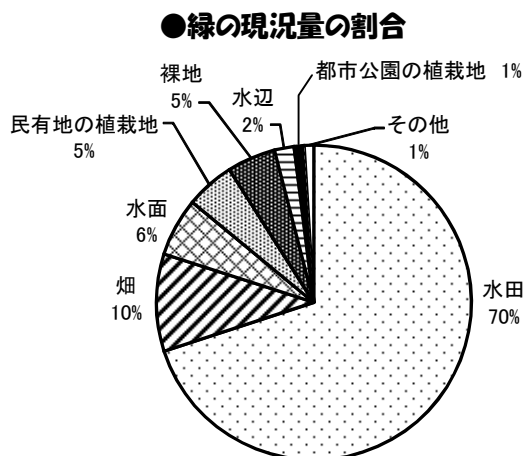
本章では、行田市の自然環境、生活環境（公害）、都市環境、資源・エネルギー、環境保全活動の現状について紹介します。

①自然、生き物

みどりの割合

平成10年度の行田市全体の面積（6,155ha）に対する緑地や水辺の面積（3,884.4ha）は、63.1%です。

そのうち、水田が約7割を占めています。自然林や人工林、二次林はほとんどありません。また、「民有地の植栽地」が4番目に多い（5%）ことから、屋敷林や雑木林などの緑が重要な役割を占めていると考えられます。



（合計 3,884.4ha）

資料：行田市みどりの基本計画策定報告書

自然環境調査

市内の動植物の生息・生育状況を把握し、地域の特徴を活かした適切な保護・保全対策の検討を行っていくために、平成19年度に自然環境調査を実施しました。調査は、荒木地区長善沼、北河原地区切り所沼、南河原地区星川、埼玉地区小崎沼周辺の4地点で実施しました。

植物は4種類（キタミソウ、ミズワラビ、コイヌガラシ、ヒメミソハギ）、哺乳類は2種（タヌキ、イタチ）、両生類はトウキョウダルマガエル、爬虫類はクサガメ、鳥類は8種類（カワウ、チュウサギ、アオサギ、トビ、チョウゲンボウ、バン、イソシギ、カワセミ）の希少種が確認されています。

●さまざまな希少種



ヒメミソハギ



チュウサギ

②公害

大気の状態

大気中のダイオキシン類、浮遊粒子状物質（SPM）、二酸化窒素（NO₂）、二酸化硫黄（SO₂）といった大気汚染物質の濃度については、平成 22 年度は、平成 21 年度に引き続きいずれの大気汚染物質濃度も環境基準値以下でした。

●大気汚染物質濃度測定結果(H22)

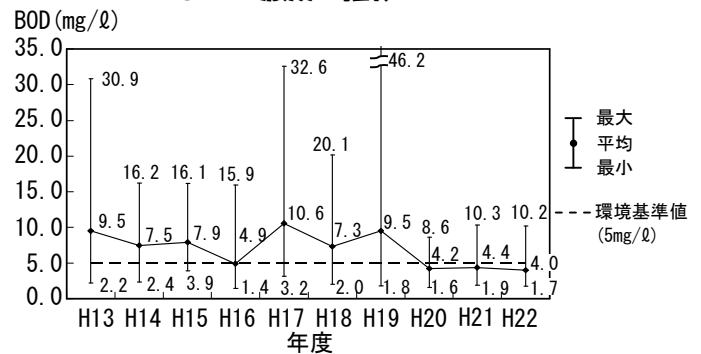
項目	濃度	環境基準
SPM (mg/m ³)	0.024 (行田)	0.1
NO ₂ (ppm)	0.014 (行田)	0.04
SO ₂ (ppm)	0.001 (熊谷)	0.04
ダイオキシン (pg-TEQ/m ³)	0.029 (行田市役所)	0.6

資料：環境課 括弧内は測定局名

水質の状態

水質汚濁の指標となる BOD（生物化学的酸素要求量）の全河川の平均値については、平成 13 年以降、4.0～10.6mg/l で推移しており、平成 22 年度は環境基準値である 5mg/l を下回る良好な結果となりました。

●BOD 濃度の推移



対象河川：新忍川、長野落、北河原用水、荒川左岸幹線用水及び酒巻導水路
 最大＝河川毎の BOD 値の 4 季平均の最大
 平均＝全河川、4 季の BOD 値の平均
 最小＝河川毎の BOD 値の 4 季平均の最小

資料：環境課

土壌の状態

市では、土壌中のダイオキシン類濃度を測定しています（市内 3 箇所）。平成 22 年度は、いずれの地点も環境基準値以下でした。

●土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(H22)

調査地点	濃度 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
南河原幼児北公園	18	1,000
砂原公園	6.3	
地域文化センター	1.1	

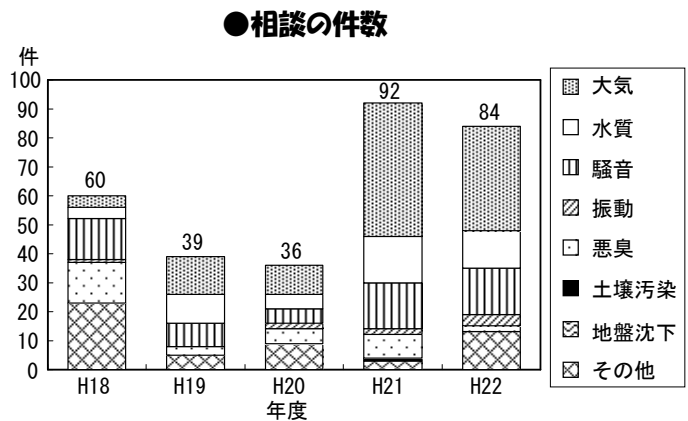
資料：環境課

※濃度の数値は、有効数字 2 桁で表示する。（ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアルより）

市民からの相談件数

市民からの相談件数は、平成 22 年度は合計 84 件で、平成 21 年度よりも 8 件減少しました。

相談の内容をみると、大気にに関するものが最も多く、騒音、水質、振動と続いています。特に平成 21 年度以降、野外焼却に関する相談が多くなっています。

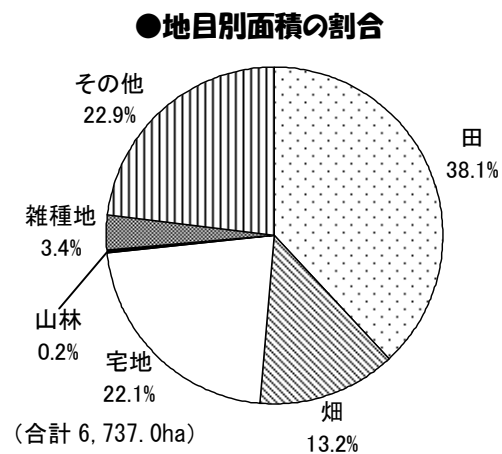


資料：環境課

③都市環境

地目別面積の割合

行田市では、地目別面積の田と畑の合計が 5 割を超えており、依然として農業がさかんであることがわかります。しかし、前年と比較すると、宅地が 6.3ha 増加し、田と畑がそれぞれ 3.8ha、2.7ha 減少するなど、わずかではありますが農地から宅地への転換が見受けられてきています。



資料：税務課（平成 23 年 1 月 1 日現在）

「浮き城のまち景観賞」

行田市では、市内に存在する自然や歴史、街並みなどに関する景観資源の掘り起こしにより、行田市の持つ魅力を市内外に広く発信し、景観まちづくりへの気運を高めるため、周辺の景観に配慮するなど、良好な景観の創出に寄与した建築物等を表彰する制度「浮き城のまち景観賞」を平成 17 年度に創設しました。

「第 5 回浮き城のまち景観賞」は、「内田家長屋門」と「丸墓山古墳」が受賞しました。



内田家長屋門



丸墓山古墳

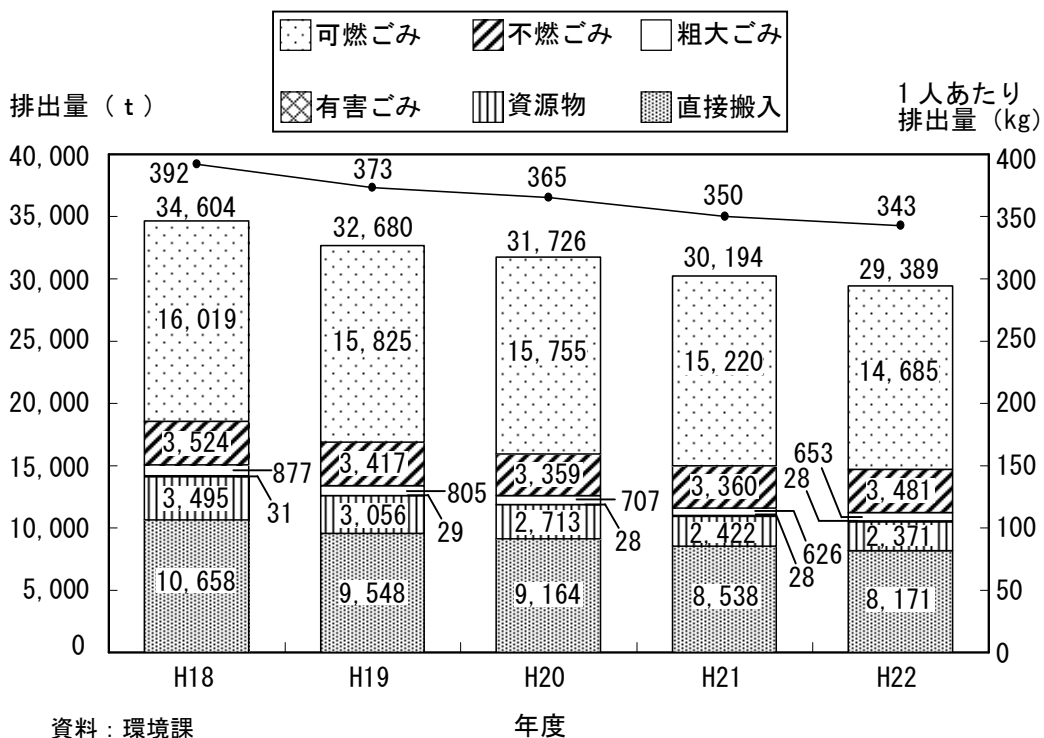
④ごみ、資源、エネルギー

ごみ排出量の推移

ごみの総排出量、一人あたりの排出量ともに減少し続けています。平成 22 年度のごみ排出量は、29,389 トンで、前年度より約 800 トン減少しました。一人あたりの排出量でみると、前年度より約 7kg 減少しました。

種類別にみると、可燃ごみが約半分を占めています。無駄な食材を買わずに生ごみを減らす、紙を大量に消費しないなど、生活の中で取り組めることも多くありますので、一人ひとりが気をつけていくことが大切です。

●ごみ排出量の推移

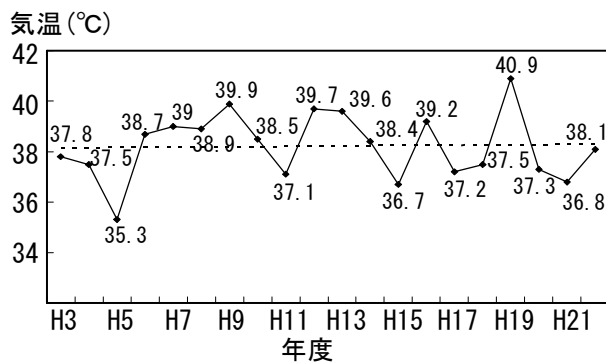


行田市周辺の気温の変化

行田市近傍（熊谷气象台）における平成 22 年の年最高気温は 38.1℃で、前年より 1.3℃増加しました。平成 19 年度には国内最高気温を記録しており、地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響が大きいと考えられます。

行田市でも、CO₂削減に向けた取り組みが一層求められます。

●年最高気温の推移



エネルギーの使用状況(水道)

平成 22 年度の水道の給水量は、前年度より増加しました。

地球温暖化対策を進めるためにエネルギーの消費量を減少させていくことが不可欠です。

●水道給水量の推移

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
水道給水量 (m ³)	9,921,082	9,650,607	9,730,259

資料：水道課

エネルギーの使用状況(都市ガス)

行田市全体で使っている都市ガスの量は、近年増減を繰り返しており、平成 22 年度は、前年度よりも約 110 万 m³ 増加しています。

●都市ガス販売量の推移

都市ガス販売量 (m³)

25,000,000

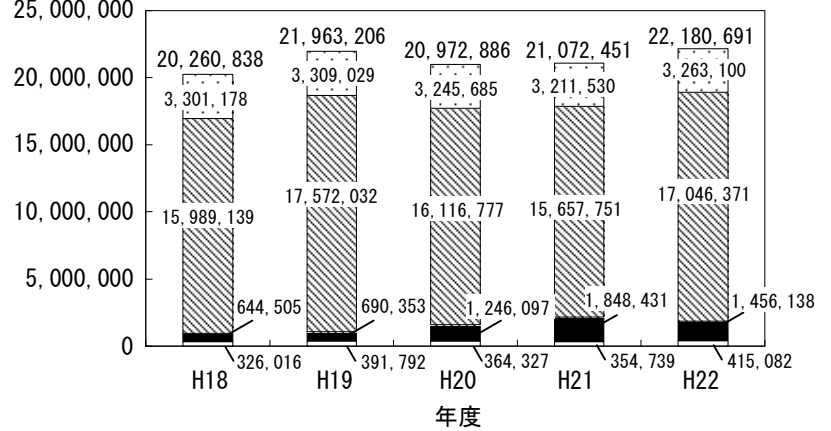
20,000,000

15,000,000

10,000,000

5,000,000

0



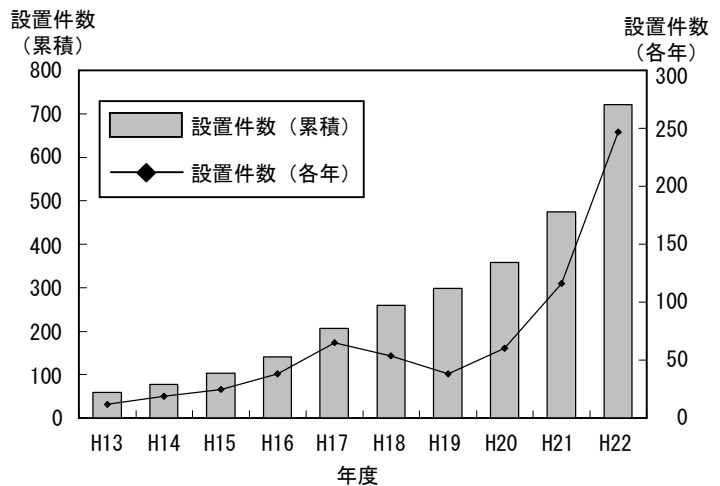
資料：東京ガス（株）熊谷支社

新エネルギーの導入状況

行田市における平成 22 年度の住宅用太陽光発電システム導入数は 247 件でした。

地球温暖化対策には新エネルギーの導入が不可欠と考えられています。

●住宅用太陽光発電システム設置件数

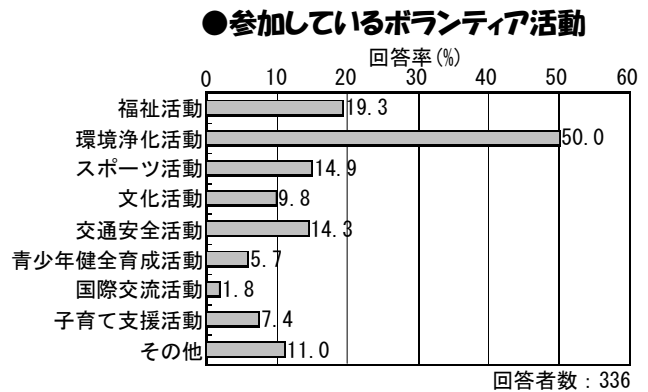
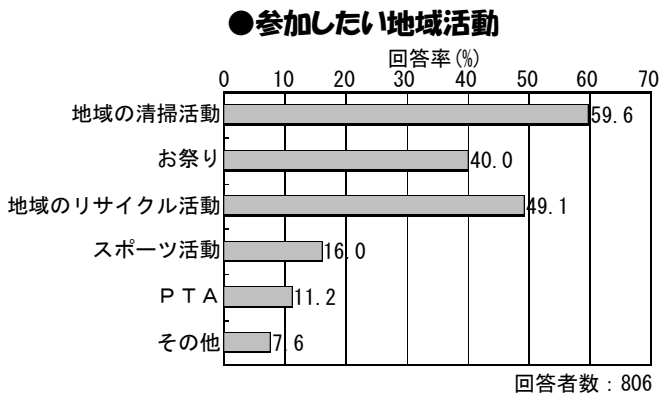


資料：環境課調べ

⑤環境保全活動

行田市民意識調査

行田市では、平成 21 年度に行田市民意識調査を行いました。参加したい地域活動について聞いたところ、約 6 割の方が「地域の清掃活動」と回答しました。また、参加しているボランティア活動については、半数が「環境浄化活動」と回答しており、環境に対する市民の高い意識がうかがえます。



資料：行田市民意識調査報告書

市による環境保全活動

行田市では、市民への環境問題の啓発を行い、市民や事業者と一緒に環境保全を行うためのイベントを定期的で開催しています。

●主な環境保全活動、イベント(平成 22 年度)

イベント名	時期	概要
ごみゼロ運動	平成 22 年 4 月 18 日	市内清掃活動を行いました。
出前講座 (3 件)	平成 22 年 10 月 20 日 平成 22 年 11 月 7 日 平成 23 年 4 月 18 日※	以下のテーマで出前講座を実施しました。 ・ごみ問題はなぜ解決しないのか (1 件) ・地球温暖化と市役所の取り組み (2 件)
夏の清掃活動	平成 22 年 8 月 8 日	市内清掃活動を行いました。
市内一斉空き缶回収運動	平成 22 年 11 月 14 日	市内清掃活動を行いました。
ごみ問題を考えるつどい	平成 23 年 2 月 19 日	講演「ごみ問題から始める循環型社会の形成」を行いました。

※平成 23 年 3 月 14 日に開催予定でしたが、東日本大震災の影響で 4 月 18 日に延期となりました。

行田市役所の温室効果ガス削減状況

行田市では、平成 20 年 3 月に、行田市役所地球温暖化対策実行計画を改定しました。この計画において、行田市では、市（出先機関を含めた全ての組織や施設）の事務・事業から発生する温室効果ガス排出量を、平成 24 年度までに平成 18 年度の排出量を基準として 4.0%以上削減することを目標に掲げ、下記の基本方針に従い、温室効果ガス排出量削減のための取組を行っています。

なお、上記実行計画のほか、埼玉県地球温暖化対策推進条例第 12 条の規定に基づき、地球温暖化対策計画・実施状況報告を県へ提出し、ホームページ上で公開しています。

●温室効果ガス削減状況

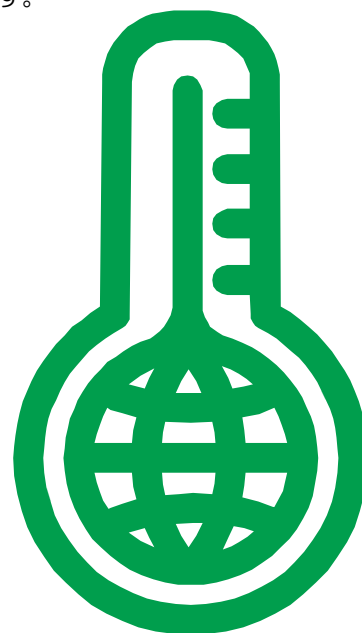
基準値 (基準年)	目標 (平成 24 年度末)	実績 (平成 22 年度末)
8,640.5 t-CO ₂ (平成 18 年度)	4.0% 以上削減 (8,294.9 t-CO ₂ 以下)	2.1%削減 (8,458.4t-CO ₂)

【 基本方針 】

- ・ 行田市役所地球温暖化対策第 1 次実行計画で掲げた取組を引き続き徹底する。
- ・ 施設の老朽化に伴う設備の更新時には、省エネルギー設備を導入する。

【 削減のための主な取組 】

- ・ 不要な照明や OA 機器などの電源を切っています。
- ・ 冷房 28℃、暖房 19℃に設定しています。
- ・ 低公害車（ハイブリッドカー）の導入を推進しています。
- ・ 太陽光発電システムなどの自然エネルギーの活用を図っています。
- ・ 照明機器を計画的に LED などの省エネタイプにしています。



行田市環境活動マップ～どこでどんな活動をやっているの？

市民団体と市が協働で取り組んでいる環境保全活動を紹介します。近くで行われている活動や、興味がある分野の活動があったら、参加してみたいかどうかでしょうか。

○いのちを守る森づくり

子供たちに木や土のぬくもりを肌で感じてもらい、自然の重要性や命の大切さを伝えることを目的として、平成 20 年度から始めました。これまで、総合公園内や古代蓮の里内に 8 千本以上もの苗木を植樹し、小さかった苗木が今では背丈を越すほどの木々へと成長しています。

* まちづくり推進課 (TEL: 048-556-1111)



○総合公園でのビオトープづくり

市民、NPO 法人、行田市等の協働により、ビオトープ（生物生息空間）として浮島いかだをつくり、公園内の池の水の浄化や水辺の自然再生を図ります。

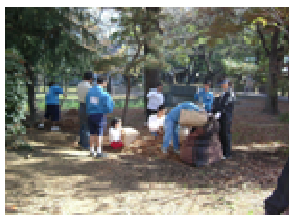


* 環境課 (TEL: 048-556-9530)

○水城公園等清掃活動

地域の自治会などとともに、水城公園等の清掃を年 3 回行っています。

* まちづくり推進課
(TEL: 048-556-1111)



○ホタルの保全活動

「古代蓮の里ホタルの会」のボランティアと市が協力して、ホタルの幼虫の飼育・観察や放流などを行っています。

* まちづくり推進課
(TEL: 048-556-1111)



○みんなで守ろうふるさとの森 ～緑のボランティア～

「行田ナチュラリストネットワーク」及び「行田市ジュニア・リーダーズ・クラブ」により、年 1 回、3 月末の日曜日



に、埼玉地区にある前玉（さきたま）神社で、樹木の間引き、枝切り、除草、ごみ拾いなどの手入れを行っています。

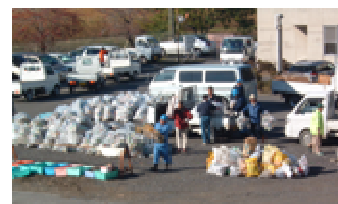
* 教育委員会ひとつくり支援課
(TEL: 048-556-8319)

○市内一斉！清掃活動

環境美化の一環として、年 2 回春と秋に、「行田市衛生協力会連合会」・「行田市自治会連合会」・「行田市コミュニティ協議会」の三者共催で、市民のみならずと一緒に、市内一斉に清掃活動を実施しています。

なお、平成 22 年度は、夏にも「行田市衛生協力会連合会」主催による市内一斉清掃活動を実施しました。

* 生活課 (TEL: 048-556-1111) / * 環境課 (TEL: 048-556-9530)



第3章 環境基本計画の進捗状況

本章では、環境基本計画の進捗状況として、①基本目標ごとに定められた重点的施策の進捗状況、②数値目標の達成状況について報告します。

●5つの基本目標とは？

行田市環境基本計画（4 ページ参照）は、望ましい環境像『先人から受け継いだ美しい田園風景と歴史的遺産を囲む豊かな自然環境を人々の生活との調和を図りながら守り育てるまち』を実現するための目標として、以下のような「5つの基本目標」を設定しています。

基本目標1

自然の恵みと生き物の営みを守り育てる

利根川や荒川等の自然の恩恵や美しい田園風景を守り、生態系及び貴重な動植物を次世代に引き継ぎます。

基本目標2

大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる

澄んだ水、きれいな空気、安全な食べ物がある、安心して暮らせる環境を維持します。

基本目標3

歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する

さきたま古墳公園や古代蓮の里、忍城址等の歴史的、文化的資産を活かし、景観やアメニティに配慮した環境が息づくまちづくりを進めます。

基本目標4

ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る

ごみの分別やリサイクル、ごみの減量にはさらに力を入れ、省エネルギーにも目を向けながら、産業や経済との調和を図ります。

基本目標5

行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む

日常生活、学校教育・社会教育等の場を通じて一人ひとりが地球環境問題への意識を高め、市民、事業所、市が一体となって積極的に地球環境等の保全に取り組み、環境意識の向上を図ります。

●重点的施策とは？

環境基本計画では、望ましい環境像の実現に向けて、早急かつ重点的に取り組むべき6つの施策を「重点的施策」として設定しています。

<重点的施策>

動植物の
生育空間の確保
(基本目標1)

有害物質の
排出抑制の促進
(基本目標2)

環境に配慮した
景観の創造
(基本目標3)

廃棄物減量化の
促進
(基本目標4)

新エネルギーの
推進
(基本目標4)

環境教育の充実
(基本目標5)

(1)重点的施策の進捗状況

ここでは、5つの基本目標に沿って、平成22年度における重点的施策の進捗状況及び目標達成状況を報告します。

なお、達成度を評価する基準は、以下のとおりです。

- A：目標が達成されている（目安；100%）
- B：概ね達成されている（目安；80%以上）
- C：達成が不十分である（目安；80%未満）
- D：達成出来てない（目安；0%）
- 「－」：実績値不明、施策実施なし

①基本目標1 ～自然の恵みと生き物の営みを守り育てる～

基本目標1に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成22年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標1の重点的施策 】

～動植物の生息空間の確保～

豊かな生態系を保全・継承するために、ホタルやトンボ等の生息空間を確保することを目指します。

●重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は7、施策に対する事業数は9、施策の進捗や効果を測る指標・目標は7あります。

平成22年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	5事業を予定どおり実施しました。
目標達成状況	2指標が目標値を達成しています。

●重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1 生物生息空間の創出

○ビオトープ設置事業の実施(農政課・環境課)

事業名		実施状況	
ビオトープの管理		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
ビオトープ設置件数	1ヶ所 (現状維持)	1ヶ所	A

○生態系に配慮した自然空間の創出(環境課)

事業名		実施状況	
啓発活動の実施		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
啓発活動件数	1回	1回	A

○樹木や雑草などの管理の徹底(各所管課・環境課)

事業名		実施状況	
管理者への通知		実施	
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
樹木や雑草などの管理に関する相談件数	平成20年度の件数(77件) の20%減(平成25年度)	108件	D

2 動植物の実態把握

○動植物の調査の実施(環境課)

事業名		実施状況	
市民参加による動植物の実態調査		—	
生態状況の作成		—	
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
市内で確認された鳥類などの種類(市内生物調査結果)	平成20年度より増加 (平成25年度)	—	—

○市内樹木調査の実施(文化財保護課)

事業名	実施状況
市内樹木の現状調査の実施	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
指定文化財(樹木)の本数	12本 (現状維持)	11本	B

○緑の実態調査の実施(まちづくり推進課)

事業名	実施状況
緑地面積調査	—

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
緑地面積調査の実施	平成27年度実施	—	—

3 動植物の保護

○行田に生息・生育している希少動植物の保護(環境課)

事業名	実施状況
市民参加による動植物の実態調査	—
傷病鳥獣等の保護	実施

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
希少種の種類(市内生物調査結果)	20種(現状維持) (平成25年度)	—	—

②基本目標 2 ～大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる～

基本目標2に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成22年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 2 の重点的施策 】

～有害物質の排出抑制の促進～

将来の世代に安全に暮らせる環境を引き継ぐため、有害物質の排出抑制の促進を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は6、施策に対する事業数は6、施策の進捗や効果を測る指標・目標は6あります。

平成22年度の状態を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	6事業を予定どおり実施しました。
目標達成状況	5指標が目標値を達成しています。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1 ダイオキシン類発生の防止

○市内野焼き防止パトロール事業の実施(環境課・消防本部)

事業名	実施状況
市内野焼きパトロール事業の実施	実施

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
野焼きに関する指導・苦情件数	平成20年度の件数(10件) より20%減(平成25年度)	74件	D

○ばい煙発生施設合同立入検査事業の実施(環境課[県と連携])

事業名		実施状況	
ばい煙発生施設合同立入検査事業の実施		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
県と合同によるパトロール回数	3回	3回	A

○ダイオキシン類調査(環境課)

事業名		実施状況	
大気及び土壌中ダイオキシン類(含コプラナーPCB)濃度測定分析		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
ダイオキシン類の環境基準達成率(大気:年平均0.6pg-TEQ/m ³ 、土壌:年平均1,000pg-TEQ/g)	100%	100%	A

2 有害物質の適正使用

○工場などでの有害化学物質適正管理や適正処理の指導(環境課[県と連携])

事業名		実施状況	
工場などでの有害化学物質適正管理や適正処理の指導		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
事業者への指導	随時実施	随時実施	A

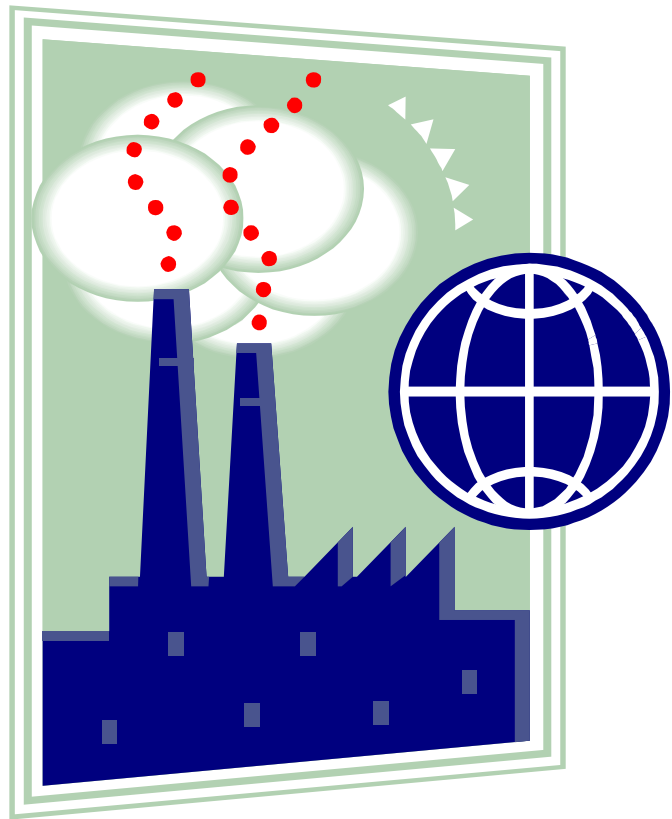
○公共施設での化学物質の適正使用(博物館内燻蒸事業)(郷土博物館)

事業名		実施状況	
博物館資料の燻蒸消毒		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
化学物質の使用頻度	年1回	1回	A

○街路樹などの消毒時の配慮(商工観光課・道路治水課・まちづくり推進課)

事業名	実施状況
消毒薬による環境負荷の削減	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
環境に対する影響の少ない消毒薬の使用	全使用時において、消毒薬の安全性を確認する	全箇所実施	A



③基本目標 3 ～歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する～

基本目標3に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成22年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 3 の重点的施策 】

～環境に配慮した景観の創造～

行田市の特徴である自然に囲まれた景観を保ちつつ、さらなる環境に配慮した景観の創造を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は6、施策に対する事業数は6、施策の進捗や効果を測る指標・目標は7あります。

平成22年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	4事業を予定どおり実施しました。
目標達成状況	3指標が目標値を達成しています。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1 環境配慮型道路空間の創造

○緑道の拡大(まちづくり推進課)

事業名	実施状況
かすが緑道の整備	—

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
緑道整備面積	10.0ha (平成32年度)	—	—

○自転車利用しやすい道路の整備(道路治水課・商工観光課)

事業名		実施状況	
自転車の利用しやすい道路の整備		実施	
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
自転車の利用しやすい道路の整備延長(自転車歩行者道:幅員3m又は4m以上)	11,500m (平成25年度)	9,178m (平成22年度整備延長:300m)	C

○放置自転車対策の実施(道路治水課・防災安全課)

事業名		実施状況	
駐輪場の整備		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
整理業務(駐車場内の整理及び駅前周辺の自転車駐車防止指導)	週3~5回の指導	週3~5回の指導	A
駐車場内長期駐車自転車の撤去(駐車場の収容能力を圧迫している長期駐車自転車の撤去)	年2回以上実施	2回	A

2 自然と共生した景観の創造

○屋敷林、社寺林の保全(まちづくり推進課)

事業名		実施状況	
屋敷林・社寺林の保全		未実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
啓発活動の実施(ホームページにて啓発)	年1回更新	0回	D

○自然あふれる歴史的文化遺産の保全(まちづくり推進課・文化財保護課)

事業名	実施状況
自然遺産周辺の美化活動	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
美化活動の実施	活動の継続(年1回以上)	2回	A

○登録文化財制度による古い建物の保存の検討(文化財保護課)

事業名	実施状況
古民家調査の実施	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
登録文化財(建造物)の件数	毎年1件増加	0件	D



④基本目標 4

～ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る～

基本目標 4 に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成 22 年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 4 の重点的施策 】

～廃棄物減量化の促進～

行田市において既に活発に推進されている廃棄物分別に加えて、次のステップである廃棄物の減量化の促進を目指します。

～新エネルギーの推進～

省エネルギーとともに、より積極的な地球環境問題対策としての新エネルギー導入の推進を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は 15（廃棄物減量化の促進：12、新エネルギーの推進：3）、施策に対する事業数は 20（廃棄物減量化の促進：14、新エネルギーの推進：6）、施策の進捗や効果を測る指標・目標は 19（廃棄物減量化の促進：14、新エネルギーの推進：5）あります。

平成 22 年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	18 事業を予定どおり実施しました。
目標達成状況	14 指標が目標値を達成しています。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

廃棄物減量化の促進

1 廃棄物処理の適正化

○収集体制の充実(環境課)

事業名	実施状況
過重負荷の防止の周知・啓発	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
過重負荷の防止の周知・啓発	随時実施	随時啓発	A

○一般廃棄物処理施設の新設(建替え)(環境課[彩北広域清掃組合と連携])

事業名	実施状況
建替え等を視野に入れた一般廃棄物処理施設の維持	—

指標名	目標	目標達成状況	評価
現状の把握(第三者機関による調査)	調査結果の検討	—	—
新炉の研究及び処理方法の検討(資料収集等による処理方法の検討)	勉強会による検討	—	—

○行政による資源リサイクルシステムの整備(環境課)

事業名	実施状況
行政による資源物収集	実施

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
リサイクル率(資源回収量÷(ごみ収集量+資源回収量)×100)	17% (平成25年度)	11%	C

○不法投棄対策の徹底(環境課)

事業名		実施状況	
不法投棄防止の看板の設置		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
不法投棄防止の看板設置	必要箇所への設置	必要箇所への設置	A

○環境センターの適正な運転管理(環境課)

事業名		実施状況	
放流水の水質検査		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
水質基準の達成率(基準達成数÷検査数×100)	100%	100%	A

○粗大ごみ処理場の適正な運転管理(環境課)

事業名		実施状況	
粗大ごみ処理場の適正な運転管理		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
適正な運転管理	適正な運転管理	適正な運転管理	A

○最終処分場の管理(環境課)

事業名		実施状況	
地下水及び河川の水質検査		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
水質基準の達成率(基準達成数÷検査数×100)	100%	100%	A

2 4R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)の促進

○家庭ごみの分別収集の促進(環境課)

事業名		実施状況	
家庭でのゴミの分別の推進		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
分別収集の周知活動(ポスターや市報等により周知活動を行う)	周知活動の実施	周知活動の実施	A

○資源物収集の徹底(環境課)

事業名		実施状況	
資源物の収集の徹底		実施	
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
リサイクル率(資源回収量÷(ごみ収集量+資源回収量)×100)	17% (平成25年度)	11%	C

○建設リサイクル法による対象建設工事の届出の徹底(開発指導課)

事業名		実施状況	
啓発広報活動		実施	
届出工事の点検・パトロール		実施	
無届工事監視パトロール		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
届出工事の点検・パトロール(分別解体状況の確認)	全届出の確認(週1回)	全届出の確認 (125件)	A
無届工事監視パトロール回数	週1回実施	週1回	A

○公共施設内でのごみ分別の啓発(環境課)

事業名	実施状況
ごみの分別排出	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
公共施設でのリサイクル(公共施設での取り組み状況)	分別収集の徹底により100%実施	100%	A

○不用品情報の発信(環境課)

事業名	実施状況
不用品情報の提供、利用	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
不用品情報利用件数	前年度(362件)より件数の増加	497件	A

新エネルギーの推進

1 新エネルギーの導入・普及

○公共施設での自然エネルギーの活用(中央公民館・社会福祉協議会)

事業名	実施状況
太陽光発電の実施(教育文化センター)	実施
太陽光発電の実施((仮称)桜ヶ丘公民館)	—
太陽熱温水システムの活用(総合福祉会館)	実施
雨水貯留タンクの活用(教育文化センター、総合福祉会館)	実施

指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
太陽光発電システム導入施設数	2ヶ所 (平成25年度)	1ヶ所	C
太陽熱温水施設導入施設数	1ヶ所	1ヶ所	A
雨水貯留タンク導入施設数	2ヶ所	2ヶ所	A

※教育文化センター：平成15年度設置

総合福祉会館：平成11年度設置

○家庭や事業所での新エネルギーの導入支援(環境課)

事業名	実施状況
導入支援	実施

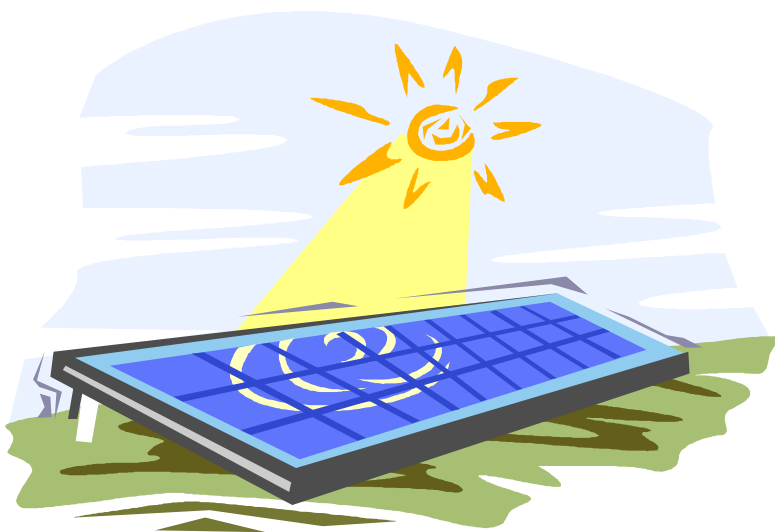
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
太陽光発電設置件数	平成20年度の件数(60件)の20%増(平成25年度)	247件	A

2 新エネルギーの研究・開発

○ものつくり大学による風力発電設備の開発・研究(商工観光課)

事業名	実施状況
風力発電	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
風力発電の実用化に向けた研究	研究の継続	研究の継続	A



⑤基本目標 5 ～行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む～

基本目標5に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成22年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 5 の重点的施策 】

～環境教育の充実～

市民が環境問題を身近なものとして捉えていくような、環境教育の充実を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は14、施策に対する事業数は15、施策の進捗や効果を測る指標・目標は14あります。

平成22年度の状況を総括すると、以下のとおりです。

事業の進捗状況	13事業を予定どおり実施し、1事業が完了しました。
目標達成状況	13指標が目標値を達成しています。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1 学校における環境教育の推進

○寺子屋事業(未来の行田を担う子ども育成事業)の実施(学校教育課)

事業名	実施状況
寺子屋事業の状況確認	実施

指標名	目標	目標達成状況	評価
環境学習を含めた寺子屋事業の実施状況（農作物や花の栽培など、自然に係わる学習なども含めた環境学習の実施校）	24校	24校	A

○学校における環境教育の推進(学校教育課)

事業名		実施状況	
環境教育に関する学習活動の紹介		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
環境教育実施校数	24 校	24 校	A

○緑化コンクールへの参加の推進(教育総務課)

事業名		実施状況	
学校緑化コンクール参加校の支援		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
緑化コンクールへの参加数	毎年 2 校	2 校	A

○学校緑化事業の推進(学校教育課、教育総務課)

事業名		実施状況	
PTA による緑化活動		実施	
指標名	目標 (目標年度)	目標達成状況	評価
学校緑化実施校数	24 校 (平成 25 年度)	24 校	A

○学校ビオトープの活用(学校教育課)

事業名		実施状況	
環境教育のアンケート調査		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
学校の内外の自然を活用した学習状況の把握	平成 22 年 2 月に調査の実施 平成 22 年度以降は毎年実施	24 校	A

○学校におけるリサイクル運動、資源ごみの回収の実施(学校教育課)

事業名		実施状況	
リサイクル運動、資源ごみの回収		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
リサイクル運動、資源ごみの回収の実施状況	24校	24校	A

○環境に配慮した児童生徒用机・椅子等の購入(教育総務課)

事業名		実施状況	
机、椅子の入れ替え		平成21年度完了	
指標名	目標	目標達成状況	評価
環境に配慮した机・椅子の整備率(整備率=新規格机・椅子購入総数÷全児童・生徒数×100)	100% (平成21年度完了)	100%	A

○環境教育推進状況調査の実施(学校教育課)

事業名		実施状況	
環境教育のアンケート調査		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
アンケートの実施校数	24校	24校	A

○行田市民大学の開校(ひとつくり支援課)

事業名		実施状況	
行田市民大学の開校		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
市民大学における環境教育関係講座の実施	毎年度講座の実施	実施	A

2 環境学習の普及・啓発

○地球にやさしい商品などの紹介や環境学習の推進(学校教育課)

事業名		実施状況	
地球にやさしい商品などの紹介や環境学習の推進(エコマーク、リサイクルマーク、エコファーマー)		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
環境学習実施校数	24校	24校	A

○ものづくり大学の学生へのアイデア募集(商工観光課・環境課)

事業名		実施状況	
環境学習についての意見募集		—	
指標名	目標	目標達成状況	評価
意見募集	随時実施	—	—

○環境学習関連の各種研修会の実施(ひとつくり支援課・環境課)

事業名		実施状況	
緑のボランティア清掃活動の推進		実施	
出前講座の利用促進		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
環境学習関連の各種研修会の実施回数	年3回	4回	A

3 環境配慮活動の支援

○出前講座による環境対策の支援(環境課)

事業名		実施状況	
出前講座の実施		実施	
指標名	目標	目標達成状況	評価
出前講座の実施率(実施回数÷依頼件数×100)	100%	100% (3件/3件)	A

○市民への環境家計簿の導入指導(環境課)

事業名		実施状況	
環境家計簿モニター実施(電子、紙)		実施	

指標名	目標	目標達成状況	評価
環境家計簿の啓発回数(市報、ホームページ)	年1回	1回	A



(2)数値目標の達成状況

実行計画は、環境基本計画に掲げた基本目標について、達成状況や進捗状況を評価するための“ものさし”となる数値目標を設定しています。

ここでは、5つの基本目標に沿って、平成22年度における数値目標を報告します。なお、達成度を評価する基準は以下のとおりです。

- A：目標が達成されている（目安；100%）
- B：概ね達成されている（目安；80%以上）
- C：達成が不十分である（目安；80%未満）
- D：達成できていない（目安；0%）
- 「-」：実績値不明、施策実施なし

実行計画では、全部で71項目の数値目標が設定されています。このうち、40項目が「A」、10項目が「B」、15項目が「C」、5項目が「D」という結果になりました。

また、目標達成率をポイント化して基本目標ごとに比較しました。「基本目標1～自然の恵みと生き物の営みを守り育てる～」が最もポイントが高く、「基本目標4～ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る～」が最もポイントが低い結果となりました。

	目標 設定数	評価 対象外*1	目標達成率(数値は該当する施策数)				ポイント*2 (昨年度比)
			A:100%	B:80% 以上	C:80% 未満	D:0%	
基本目標1	11	0	8	0	3	0	2.5(+0.1)
基本目標2	28	0	18	3	7	0	2.4(+0.1)
基本目標3	13	1	6	4	1	1	2.3(+0.1)
基本目標4	6	0	1	3	0	2	1.5(-0.3)
基本目標5	13	0	7	0	4	2	1.9(-0.1)
総 合	71	1	40	10	15	5	2.2(±0)

※1 実績が不明、関連する施策の実施がない等により、目標の達成状況が把握できないもの。

※2 A=3ポイント、B=2ポイント、C=1ポイント、D=0ポイントとし、平均化したもの。

①基本目標 1 における数値目標の達成状況

基本方針：緑地の保全・形成

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
緑化目標値	市営住宅敷地内 緑地面積	5.63ha (現状維持) (平成 25 年度)	5.63ha	A
	学校緑地面積	22.75ha (現状維持) (平成 25 年度)	22.75ha	A
	都市公園の緑化 面積	63.1% (現状維持) (都市公園面積の 50%以上)	63.1%	A
	生産緑地地区面積	23.05ha (現状維持) (平成 27 年度)	23.05ha	A
	緑道の整備量	2.4 m ² /人 (平成 27 年度)	1.04 m ² /人	C
	民間施設緑地の整 備量	0.24ha (現状維持) (平成 27 年度)	0.24ha	A
	民有地の緑化面 積	2,641.62 m ² (現状維持) (平成 27 年度)	2,641.62 m ²	A
公園・緑地面積	総面積	1,894,000 m ² (平成 27 年度)	917,900 m ²	C
	市民 1 人当たり	17.5 m ² (平成 27 年度)	10.4 m ²	C
管理活動状況	学校内の草刈な どの実施校数	24 校 (現状維持) (平成 25 年度)	24 校	A
	学校内の樹木の 剪定	10 件 (現状維持) (平成 25 年度)	14 件	A

②基本目標 2 における数値目標の達成状況

基本方針：大気環境の保全

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
大気に関する環境基準	ダイオキシン類濃度年平均値	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 】	0.029pg-TEQ/ m^3	A
	浮遊粒子状物質濃度 (SPM)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 】	0.024mg/ m^3	A
	二酸化硫黄濃度 (SO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】	0.001ppm	A
	二酸化窒素濃度 (NO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】	0.014ppm	A
低公害車導入台数・導入率	公用車 (本庁車) *軽自動車・バスを除く	20 台 50.0% (20/40 台) (平成 25 年度)	22 台 64.0% (22/34 台)	A
	公用車 (消防本部事務連絡車)	3 台 (平成 25 年度)	1 台	C
	公用車 (環境課事務連絡車)	1 台 (平成 25 年度)	1 台	A
	移動図書館車	1 台 (現状維持) (平成 25 年度)	1 台	A
	市内循環バス	4 台 (平成 25 年度)	2 台	C

基本方針:水資源の保全・改善

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
河川の水質に関する環境基準	pH (水素イオン濃度指数)	環境基準の維持・向上 【6.5~8.5】	6.7~9.7	B
	BOD年平均值 (生物化学的酸素要求量)	環境基準の達成 【≤5mg/ℓ】	4 mg/ℓ	A
	SS年平均值 (浮遊物質)	環境基準の維持・向上 【≤50mg/ℓ】	12.2 mg/ℓ	A
	DO年平均值 (溶存酸素量)	環境基準の維持・向上 【≥5mg/ℓ】	8.8 mg/ℓ	A
	MBAS年平均值 (合成洗剤主成分)	環境基準の維持・向上 【≤1mg/ℓ】	検出限界 (0.05mg/ℓ) 以下	A
	T-N年平均值 (全窒素)	環境基準の達成 【≤1mg/ℓ】	3.0 mg/ℓ	C
	T-P年平均值 (全磷)	環境基準の達成 【≤0.1mg/ℓ】	0.22mg/ℓ	C
河川底質に関する環境基準	PCB含有量 (ポリ塩化ビフェニル)	環境基準の維持・向上 【≤10ppm】	検出限界 (0.01ppm) 以下	A
	T-Hg含有量 (総水銀)	環境基準の維持・向上 【≤25ppm】	0.055ppm	A
地下水の水質に関する環境基準	有機塩素化合物 トリクロロエチレン	環境基準の維持・向上 【≤0.03mg/ℓ】	検出限界 (0.002mg/ℓ) 以下	A
	有機塩素化合物 テトラクロロエチレン	環境基準の維持・向上 【≤0.01mg/ℓ】	検出限界 (0.0005mg/ℓ) 以下	A
	有機塩素化合物 1,1,1-トリクロロエタン	環境基準の維持・向上 【≤1mg/ℓ】	検出限界 (0.0005mg/ℓ) 以下	A
下水道普及率	人口普及率	55.2% (平成24年度)	54.30%	B
透水性舗装整備面積	歩道	41,000 m ² (平成25年度)	35,320 m ²	B
公共施設での雨水・中水利用	雨水・中水利用システム導入件数	3件 (平成25年度)	2件	C
合併処理浄化槽の普及促進	補助件数(単年度)	100件 (平成25年度)	103件	A

基本方針:土壌・地盤環境の保全

指標		目標	実績	評価
土壌に関する環境基準	ダイオキシン類濃度年平均値	環境基準の維持・向上 【 ≤ 1000 pg-TEQ/g】	8.33 pg-TEQ/g	A

基本方針:騒音・振動の防止

指標		目標	実績	評価
騒音に関する環境基準	上越・長野新幹線騒音	新幹線環境基準の達成 【 ≤ 70 dB】	最高測定値：75dB 軌道中心線から25m 地点	C
	市内道路交通騒音	環境基準の達成率 100%	67% (8 地点/12 地点)	C

③基本目標 3 における数値目標の達成状況

基本方針:環境資源を楽しむ観光の振興

指標		目標	実績	評価
緑のふれあい活動の実施回数	森づくり環境再生事業（植樹祭）	年 1 回 (現状維持)	1 回	A
美化活動の実施回数	河川美化運動	年 2 回 (現状維持)	2 回	A
	市内一斉空き缶回収運動	年 1 回 (現状維持)	1 回	A
	ごみゼロ運動	年 1 回 (現状維持)	2 回	A
	公園の美化活動回数	年 3 回 (現状維持)	3 回	A
	緑のボランティア清掃活動	年 1 回 (現状維持)	1 回	A
違反簡易広告物の除却	住民参加による除却活動回数	年 4 回 (現状維持)	3 回	B
	市実施による除却作業回数	年 22 回 (現状維持)	20 回	B

基本方針：環境保全型農業の推奨

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
農業とのふれあいの機会、参加人数	行田市農業祭	年 1 回 2,000 人 (現状維持)	東日本大震災の影響で中止	—
	田んぼアート (田植え・稲刈り体験)	年 2 回 1,000 人 (平成 25 年度)	2 回 639 人	C
農地面積	水田面積	3,083ha (現状維持) (平成 25 年度)	3,071ha	B
行田産野菜などの販売額	直売所販売額	平成 20 年度比 3%増額 約 2 億 7,000 万円 (平成 25 年度)	2 億 5,434 万円	D
エコファーマー認定数	認定件数	25 件 (平成 25 年度)	23 件	B

④基本目標 4 における数値目標の達成状況

基本方針：省エネルギーの促進

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
電気使用量	行田市役所	平成 18 年度を基準として 5%削減 (平成 24 年度)	1.49%増加 16,296,263kWh	D
	総合体育館内	742,600kWh (平成 25 年度)	658,470kWh	A
	やすらぎの里施設内	320,000kwh (平成 25 年度)	334,308kWh	B
太陽光発電導入件数	公共施設	4 件 (平成 25 年度)	3 件	B
LED ランプ導入件数	市街地の街路灯	2 件 (平成 25 年度)	0 件	D
	公園の園内灯	29 基 (平成 25 年度)	26 基	B

⑤基本目標 5 における数値目標の達成状況

基本方針：市民・事業者の参加・協力管理体制の充実

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
市民参加の活動 件数・参加人数	花いっぱい運動	年 1 回 (現状維持)	1 回	A
	古代蓮会館緑化 指導教室	121 人 (現状維持)	60 人	C
	緑や花のイベント	年 2 回 (現状維持)	2 回	A
	自然観察会など	年 3 回 80 人	3 回	A
	環境イベントへの参加	年 1 回	1 回	A
	サケ観察会（採卵、放流）	年 2 回 (現状維持)	2 回	A
事業者の環境配慮活動状況	環境にやさしい商品開発数	2 個 (平成 25 年度)	0 個	D
	ノーレジ袋運動協力店舗数	10 店舗 (現状維持) (平成 25 年度)	10 店舗	A
	ISO14001 取得件数	20 件 (平成 25 年度)	20 件	A
市民、企業、NPO との協働事業件数	事業件数	年 4 件	3 件	C
地域環境指導者の登録人数	埼玉県環境アドバイザー	3 人 (平成 25 年度)	0 人	D
	埼玉県環境教育アシスタント	5 人 (平成 25 年度)	3 人	C

基本方針：市の環境配慮の率先実行

指標		目標 (目標年度)	実績	評価
温室効果ガス総排出量	行田市役所	平成 18 年度を基準として 4.0%削減 (平成 24 年度)	2.1%削減 8,458,449kg-CO ₂	C

～皆様からのご意見・ご感想をお聞かせください～

行田市の環境施策や、この「平成 23 年度版 行田市環境報告書～この地球とともに～」について、お気づきの点やご意見、ご感想等がございましたら、下記までご連絡ください。

今後の環境施策の推進や、よりわかりやすい環境報告書づくりの参考にさせていただきます。

【あて先】



行田市環境経済部環境課環境政策担当

〒361-0031 埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話：(048) 556-9530 FAX：(048) 553-0792



平成 23 年度 行田市環境報告書
～この地球とともに～

平成 23 年 12 月発行

発行 行 田 市

編集 行田市環境経済部環境課

〒361-0031

埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話 (048) 556-9530

FAX (048) 553-0792

この冊子は、再生紙（古紙パルプ配合率 100%）を使用しています。

